

清経ノ妻 石井 寛人

平清経 新井 麻衣子

能 清 経

粟津三郎 宝生 常三

大鼓 柿原 光博
小鼓 住駒 充彦

笛 栗林 祐輔

後見 永島 充
中所 宜夫

地謡 筒井 陽子 桑田 貴志
奥川 恒成 鈴木 啓吾
中森 健之介 坂 真太郎

【休憩十五分】

狂言 文 荷

太郎冠者 三宅 右矩

主 高澤 祐介
次郎冠者 三宅 近成

後見 前田 晃一

養 老 墨 敬子

仕舞 歌 占 キリ 奥川 恒治

野 守 中所 宜夫

地謡 筒井 陽子
奥川 恒成
桑田 貴志
石井 寛人

【休憩十五分】

能 杜 若

杜若ノ精 津村 禮次郎

旅僧 館田 善博

大鼓 佃 良太郎 太鼓 梶谷 英樹
小鼓 大山 容子 笛 平野 史夏

戀之舞

後見 石井 寛人
奥川 恒治

地謡 中森 健之介 鈴木 啓吾
坂 真太郎 中森 貫太
永島 充 中所 宜夫

【終演予定 四時三十分】

許可のない録音、撮影は一切禁止です。携帯電話は電源からお切り下さい。演能や他のお客様の迷惑となる行為はご遠慮願います。場内によっては退場頂く事もございますのでご了承下さい。

能：清経(きよつね)

平重盛の三男、平清経は平家の前途に絶望して、豊前の国(福岡県)柳ヶ浦で入水する。清経の家臣である淡津三郎(ワキ)は形見の黒髪を清経の妻(ツレ)に届けるために戻ってくる。話を聞いた妻は、せめて討死にするか病死ならはともかく、自分を残して入水したということに嘆き悲しむ。そして形見の黒髪を見るのも忍びなく、涙ながらに三郎に突き返してしまふ。

夜半を過ぎ、ましろむ妻の前に清経の亡霊(シテ)が現れる。互いを想いながらも恨み事を連ね言葉を交わす二人。清経は妻が形見を返したことを恨めしく思うが、妻にとつては、夫が自分を残した上、この御代や平家・門の行く末を見届けずに一人で身を捨ててしまったことが受け入れ難いのである。清経は、都を落ちた平家・門が筑紫での戦いにも敗れ、願をかけた宇佐八幡宮からも見放されたいきさつを語り、平家と我が身の運命に絶望して死を決意し、船中で笛を吹き、今様を謡って入水したことを語る。そして死後、修羅道に落ちて苦しむ様を見せるが、入水の時に唱えた念仏の功德によつて成仏できたことを述べ、姿を消すのであった。

狂言：文荷(ふみにない)

主人から千満という少年に文を届けるように言いつけられた太郎冠者。次郎冠者は、竹の棒に結びつけて肩にかついでいく。これは恋文だから重いと云い、能「恋重荷」の節を謡っているうちに、文を下ろして座り込む一人。さらには文を開いて主人の文章をあげつらつて楽しみ、一人で読み争うように引っぱり合っていると、文は破れてしまふ。二人の帰りが遅いので主人が見に来ると...

仕舞：養老(ようろう)

美濃国、養老滝。ここに湧いた不思議な泉を見に来た勅使の前に現れた山の神は、この霊水の如き清らかな御代を讃えると、祝福の舞を舞う。

仕舞：歌占(うたうら)

神の憑依を受け責め苛まれる男巫。髪は乱れて逆立ち、汗がこぼれ落ち、伊勢の神風に揉まれ震える如き異様な様であったが、やがて正気に戻り、再会した我が子を伴うと、故郷へと帰つてゆくのであった。

仕舞：野守(のもり)

野守の鏡を持って現れた鬼神。鏡に四方八方、天界から地獄までをも映して見せた後、大地を踏み破つて地獄へと帰つていく。

能：杜若(つるし)

諸国一見の僧(ワキ)が三河国のとある沢辺に立ち寄り、今を盛りと咲いている杜若を眺めている。そこへ年若い女性(シテ)が現れ、ここが杜若の名所であること、また蜘蛛の手足の様に分かれた川に橋を八つ渡したために八橋の名があることを語る。さらには、在原業平がここで「かきつばた」の五文字を句の上に置いて「唐衣着つつ馴れにし妻しあれば遙々きぬる旅をしぞ思う」と詠んだことも物語る。

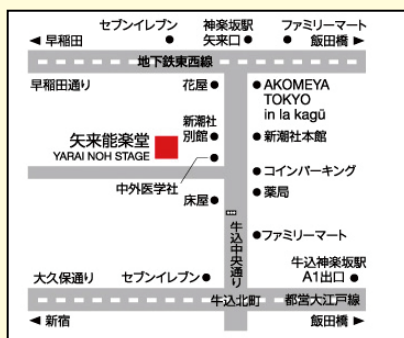
女性は僧を自分の庵に案内する。(物着)やがて美しい衣と冠を着けて現れた女性。衣はこの歌に詠まれた高子の後の御衣であるという。また冠は、「豊の明の節会」で舞姫が舞う「五節の舞」の折に、業平が身につけていたものだと言ふ。それらを形見として持つていることに驚き、僧が素性を尋ねると、女性は自らが杜若の精であることを明かす。そして、業平は衆生を救うべく現れた歌舞の菩薩であり、歌に詠まれることによつて縁を結んだ草木までもが成仏できるのだと述べる。さらには伊勢物語の故事を語り舞い、夜明けとともに消えていくのであった。

「戀之舞」という小書(特殊演出)では、物着で日陰の糸を垂らした冠をつけ、真ノ太刀をはく姿となる。舞の中では橋掛にて袖をかついて姿を水鏡に映し、業平の姿を恋い慕ふ場面もあり、笛の音がそれを演出する。

2024. 4.6(土)PM1:00(正午開場)
矢来能楽堂

〒162-0805 新宿区矢来町 60
☎ 03-3268-7311

地下鉄東西線神楽坂駅下車 矢来口より徒歩 2 分
都営大江戸線牛込神楽坂駅 A1 出口より徒歩 5 分
駐車場はございません。
近隣のコイン駐車場をご利用下さい。



入場料 (全自由席)

会員券 (年4回) 一般 20,000 円 学生 10,000 円
1 回券 (当日券) 一般 6,000 円 学生 3,000 円

申込先：各出演能楽師または緑泉会まで

新井 麻衣子 TEL&FAX 04-2946-8389
津村 禮次郎 TEL 042-386-2131
FAX 042-386-2132

令和6年 第3回例会 9月29日(日)

舞囃子…… 高砂 Takasago …………… 墨 敬子
能…………… 芭蕉 Bashou …………… 中所 宜夫